

教科名【国語】

児童の実態

- ・ **話すこと聞くこと**
自分の思いや考えを話すことはできるが、相手を意識して話すことまでは十分できていない。聞くことについても、大切な事を漏らさずに聞く事が難しい児童が多い。
- ・ **書くこと**
得意な児童もいるが、一方で書くことを苦手と感じている児童も多く見られ、個人差が大きい。また、何を書いたら良いか分からず、書き始めに止まってしまう児童もいる。
- ・ **読むこと**
読書好きな児童が多く、物語文の登場人物の特徴や心情・場面の描写を捉えることは比較的できるが、前後の文を考えた丁寧な読み取りが苦手な傾向がある。
- ・ **言語事項**
言葉のきまりに関する事が十分理解できていない。また、使い方を考えて適した漢字を書くことが十分とはいえない。

授業革新推進に向けて

- ・ 「話すこと・聞くこと」については、スピーチの内容にテーマを設けるなど、話の焦点化を図り、話し手は話しやすく、聞き手は聞きやすいよう工夫する。児童同士が友達の話し方からも学べるようにする。
- ・ 「書くこと」については、国語の時間の他にも、日常的に自分の考えを書く機会（3行日記や思い出カードなど）を低学年のうちから作る。どんなことを書いたら良いか始めに丁寧に指導する。
- ・ 「読むこと」については、文章の中の言葉を手がかりにし、内容や要旨、書き手の考えを捉えさせていく。「いつ」「どこで」「だれが」などの文章の構成を意識した「係り受け解析」の力を高める指導を行う。本の読み聞かせや紹介を積極的に実施し、「読むこと」に興味をもたせる。
- ・ 漢字の読み書きについては、「基礎タイム」（朝のモジュール学習）の時間を中心に、文や文章の中で適切に使うことができるよう指導する。